

平成25年度事業計画書

(自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日)

公益財団法人双葉電子記念財団

平成25年度事業計画書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

I. 基本方針

我が国の経済活動は、昨年末の政府の政策方針の転換により、一気に円高から円安基調が高まり、大きな転換点を生み出しつつあります。しかし、国内は東日本大震災からの復興の遅れ対策、今後発生すると思われる自然災害へのリスク対策、引き続いてのエネルギー対策、国外では、日本を取り囲むアジア諸国との国際政治・経済対策など、解決すべき課題が山積し、今後も社会・経済変化は予断を許さない状況です。

当財団も、その急激な変化に対応した柔軟な事業活動を行うために、全国規模の公益財団法人への移行作業を進め、平成24年8月1日、主務官庁がこれまでの千葉県教育委員会から、内閣府行政局となり、全国展開できる公益財団法人に生まれ変わりました。しかし、その設立趣旨は全く変わりません。引き続き自然科学技術の研究者や学生、発明振興などへの助成事業を行うことにより、将来の我が国を背負っていく人材の育成に努めます。

今後は、公益法人に課せられた使命を再認識し、これまでの当財団の過去の諸事業の実績を踏まえつつ、新たな展開を期する為、事業活動内容の見直し、行政庁への対応を含め、一層の効率的・効果的な事業運営に努めて参ります。

平成25年度は以下の諸事業を推進することといたします。

II. 事業内容

1. 自然科学技術研究助成事業

これまでの研究助成対象の方針である、「千葉県を中心とする」を「日本国内」に替え、日本全国の試験研究機関、大学等が応募できることとし、従来の応募申請の実績のある大学には応募書類の郵送を行うと共に、財団ホームページを通じ、我が国の産業基盤に関係する埋もれた自然科学技術を発掘し助成を行います。さらに、過去に助成を受けた施設等を訪問し、財団助成金による研究内容・設備等の確認等を併せて行います。

なお、平成24年度に助成金を受けられた研究者の方々には、平成25年7月5日（金）開催予定の研究成果発表会において其の研究の一端をご発表いただくと共に、研究成果を年報に掲載することにより、広く周知を図ることとします。

また、本年度も以下の通り研究助成金の交付及び贈呈式並びに成果発表会

等を行います。

＜平成25年度助成金額＞

A区分：200万円以下/1件を5件以内

B区分：100万円以下/1件を10件以内 AB計15件以内

(なお、継続申請者は3年まで、累計で3回までとします。)

＜千葉大学「なのはなコンペ2013」＞

今年度も千葉大学関係先と連携は行いますが、応募テーマは従来の「ベンチャー志向先端研究部門」ではなく、「新技術・新産業の創出につながる萌芽段階のユニークな研究」と替え、実質的に自然科学研究助成と同じ応募内容として、整合性をとります。また、過去3年間の「なのはなコンペ」受賞者は申請出来ないとし、特に若い新人研究者が申請しやすい環境とします。

千葉大学内外の審査員の書類審査、発表審査を経て選考された優秀な研究者に当財団から研究助成金の支給をおこないます。

＜研究助成金贈呈式＞

本年度も平成25年7月5日(金)に平成25年度に助成金を受けられる研究者の方々に対し、研究助成金決定通知書の贈呈式を千葉市美浜区のホテルスプリングス幕張において開催いたします。また併せて、平成24年度に助成金を受領された研究者の研究成果の一端をご発表いただきます。

なお、研究成果の内容については、当財団の年報および財団ホームページに掲載することにより周知を図ります。

2. 奨学金給付事業

今年度は従来と同様、千葉県内の大学院博士後期課程に在籍、若しくは千葉県内に居住する大学院博士後期課程に在籍する大学院生を対象に募集を行います。平成25年度の募集に当たっては、従来の応募申請実績のある大学には応募書類の郵送を行うと共に、財団ホームページを通じ募集を行います。また、前年と同様に海外からの留学生も対象とします。特に本年度は、東日本大震災において被害に遭われた方には、特に罹災証明書を申請時に提出して頂くことにより、その状況も選考時の判断材料の1つとさせていただきます。

＜平成25年度対象者＞

月額7万円 8名

3. 発明振興事業

次世代を担う青少年に、科学する楽しさ、創造する面白さを、体験・学習する場として、(一般社)千葉県発明協会が推進する「青少年創造性育成事業」に協賛し、茂原市に設立された「茂原少年少女発明クラブ」活動事業等を引き続いて支援します。

また、県内の工業高等学校が行うロボット技術を競う大会、茂原市技術家庭教育部会の技術教育、茂原市教育委員会主体で実施する「おもしろ実験まつり」等の科学技術教育活動を引き続き支援します。また、千葉大学主催の「高校生理学研究発表会」への寄付、および審査員活動での支援を行います。引き続き千葉大学先進科学プログラム（飛び入学）への支援を行います。

4. 公益財団法人移行後の運営

公益財団法人の交流を通して他の公益財団法人とも親交を密にして、情報収集を図ると共に、公益財団法人としての行政庁提出関係の書類の作成及び整備を行い、立ち入り検査対応の準備を進めます。

5. 財団事務局内の整備

引き続きこれまでの双葉電子記念財団の資料の整理、並びに過去の助成成果のデータベース化を進めると共に、そのデータを有効に生かせるようなデータシステムの構築、セキュリティ対策、データの危険分散など、事務所内の IT 整備を段階的に行います。

平成25年度収支予算書

自 平成25年4月01日
至 平成26年3月31日

1. 総括表

(単位:円)

区 分	収入額	支出額	差引残高	差引残高の処理	
				基本財産へ組入	翌年度へ繰越
一般会計	78,635,024	82,591,350	△ 3,956,326	—	—
計	78,635,024	82,591,350	△ 3,956,326	—	—

2. 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1. 財産運用収入	78,635,024	78,735,024	△ 100,000	
1) 預金利子収入	500,000	600,000	△ 100,000	
2) 配当金収入	78,135,024	78,135,024	0	
2. 寄附受入収入	0	0	0	
収入合計	78,635,024	78,735,024	△ 100,000	

自 平成25年4月01日

至 平成26年3月31日

3.支出の部

科 目	当期予算額(A) (H25/4~H26/3)	前期予算額(B) (H24/4~H25/3)	増減(A)-(B)	摘 要
1. 事業費	52,248,150	58,950,400	△ 6,702,250	
1) 研究助成金	30,000,000	35,500,000	△ 5,500,000	
2) 奨学金	6,720,000	9,400,000	△ 2,680,000	
3) 発明振興費	7,800,000	6,300,000	1,500,000	
4) 選考会費	2,620,000	3,000,000	△ 380,000	
5) 広報費	1,908,150	1,750,400	157,750	
6) 発表会費	2,700,000	2,500,000	200,000	
7) 書籍出版			0	
8) その他	500,000	500,000	0	
2. 管理費	30,343,200	31,275,600	△ 932,400	
1) 人件費等	20,000,000	20,700,000	△ 700,000	
給与等	19,200,000	19,700,000	△ 500,000	
福利厚生費	300,000	600,000	△ 300,000	
旅費交通費	500,000	400,000	100,000	
2) 備品費	200,000	300,000	△ 100,000	
什器備品費	200,000	300,000	△ 100,000	
3) 消耗品費	2,220,200	1,966,600	253,600	
消耗品費	800,000	800,000	0	
印刷費	100,000	0	100,000	
通信・運搬費	590,000	484,400	105,600	
水道・光熱費	264,000	216,000	48,000	
保守・リース料	466,200	466,200	0	
4) 理事会・評議員会費	2,380,000	2,880,000	△ 500,000	
5) 一般諸経費	2,160,000	2,260,000	△ 100,000	
借室料	2,160,000	2,260,000	△ 100,000	
その他			0	
6) 雑費	3,083,000	2,669,000	414,000	
7) その他	300,000	500,000	△ 200,000	
			0	
支出合計	82,591,350	90,226,000	△ 7,634,650	
収支差額	△ 3,956,326	△ 11,490,976	7,534,650	
合 計	78,635,024	78,735,024	△ 100,000	

平成25年度支出予算